

| 第1回 氷見市総合計画審議会第1部会 会議録 | | |
|------------------------|---|---|
| 日時 | 令和2年11月27日（金） 13時30分から15時30分まで | |
| 場所 | 氷見市役所 301会議室 | |
| 出席者 | 委員 | 尾畑納子、菊川昌彦、櫻田惣太郎（代理：笹島）、高木義則、高嶋達（代理：七分）、釣谷聡、松波久善、盛永章祥、（出席8名） |
| | 市関係職員等 | 京田企画政策部長、事務局（地方創生推進課） |
| 次第 | 1 開 会 2 企画政策部長あいさつ 3 第1部会委員の紹介 4 議事 (1) 計画体系図について (2) 第8次氷見市総合計画後期基本計画の進捗状況について (3) 基本理念について (4) 氷見市の10年後を見据えて (5) 意見交換について 5 その他 6 閉 会 | |
| 資料 | 【説明資料】 資料1 氷見市総合計画 体系図 資料2 第8次氷見市総合計画後期基本計画進捗状況 資料3 氷見市の10年後を見据えて 【参考資料】 冊子 第8次氷見市総合計画 冊子 第8次氷見市総合計画 概要版 冊子 氷見市の10年後のありたい姿 | |

1 開 会

（司会）

定刻前であるが、委員の皆さんがお揃いなので、第1回氷見市総合計画審議会第1部会を開催する。

2 企画政策部長あいさつ

（企画政策部長）

皆さんには、多用の中、第1回氷見市総合計画審議会第1部会に出席いただき、御礼申し上げます。

また、日頃から、市政の発展に格段の支援、協力を賜り心から感謝申しあげる。

さて、9月25日に第1回氷見市総合計画審議会が開催され、市長から第9次氷見市総合計画の策定について諮問された。

本計画について市長からは、人口減少や高齢化社会に対応した第2期「氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や、新型コロナウイルス感染症などに伴う社会環境の大きな変化などを踏まえ、氷見市の将来に向けた計画となるよう、委員の皆さんに審議をお願いしたところである。

本日の第1部会においては、「10年後のあるべき姿（基本理念）」「10年後のあるべき姿を実現するために注力すべき柱（基本目標）」に関する事項について、議論いただきたい。

委員の皆さんには、忌憚のない建設的なご意見などを賜りたい。

(資料確認)

資料について説明・確認

3 委員の紹介

出席者、委員代理出席者の紹介

4 議事

(1) 計画体系図について

(2) 第8次氷見市総合計画後期基本計画の進捗状況について

(事務局)

議事進行は、部会長にお願いする。

(部会長)

本日は、計画の体系の基になる基本理念、基本目標のベースを固めて、次に進むことになっている。皆さんに意見を伺いたい。

それでは、議題1 計画体系図について事務局から説明をお願いする。

(事務局)

「資料1 氷見市総合計画 体系図」「資料2 氷見市総合計画後期基本計画進捗状況」を説明

(部会長)

今の説明に対して、意見や質問はあるか。

第1部会は、緑の部分について考える部会だと思うが、全体を通しての意見を頂きたい。

この評価は最終的には2021年に最終評価ということになるか。

(事務局)

そうである。

(委員)

第8次氷見市総合計画は令和3年度までということで、基本目標も4つ掲げているが、新しい第9次氷見市総合計画はこの4つの体系にこだわらず、一番良い形にしていこうということか。それともこの4つは、守っていこうということか。

(事務局)

第9次氷見市総合計画については、基本目標は第8次氷見市総合計画と同じにしなければということは今のところ思っていない。何項目にしたら良いかということも含めて皆さんの意見を願います。

(3) 基本理念について

(4) 氷見市の10年後を見据えて

(部会長)

皆さんのご意見につきましては、後ほどまとめて伺うことにして、先に資料3や参考資料の説明をお願いします。

(事務局)

「参考資料 第8次氷見市総合計画P24、第8次氷見市総合計画概要版P6」「資料3 氷見市の10年後を見据えて」を説明

(部会長)

第8次氷見市総合計画を受けて、現在の環境から10年先を考えるのはなかなか難しい。第8次氷見市総合計画の時には、震災があり、経済の成長が厳しい時代があった。ここにきて少し良くなるかなと思ったが、不透明な社会環境になった。しかし、現在のことを踏まえながら、10年後のイメージをつくりたいと思う。現在、新型コロナウイルス感染拡大により、オンラインが一気に普及している。これがもっと進んでいくのではないかと予想されている。その一方で人口は確実に減っていく。これは氷見市だけではなく、日本全体の問題であるので、その環境の中で、氷見市の良いところをどのようにして持続させていくのか、注目されるまち、人が住みたいまちにするためにはどういうものを柱建てにしたら良いのか、なる、ならないは別として、皆さんの意見をどんどん掲げて下さい。

(委員)

高齢化の波は致し方のないことであるが、でも成り行きに身を任せるのではなくて、例えば元気な高齢者に活躍できる場をつくっていくことで、地域において安心して皆が役割を持って生活できる共生社会、基盤を確立することによって氷見市民の方々が安心して暮らせる状況になれば良いと思う。

(部会長)

私は富山市で生まれ育った氷見市外の者だが、氷見市は上手に宣伝してきている感じがする。氷見市のフェイスブックはいつも見ているが、そういう風に様々なことをしている印象がある。食においても、近年は山の方にワイナリーができたりと地産地消でやっているイ

メージがあり、他市に住んでいる者からすると羨ましいと感じる。実際に携わっている方々は非常に努力をされたと思うし、今後不安もお持ちかも知れない。地元愛をたくさんお持ちの皆さんには、提示された9項目だけでは足りないものもあるのではないかと。そういったことで、委員の皆さんにはどんなことでも良いので、意見を願います。防犯等の安全面からお話し頂けないか。

(委員)

高齢化社会で防犯や交通は切り離せない部分。交通面では高齢者が加害者、被害者双方になる事故もあり、交通弱者を守り、交通死者を出さないためにはこの対策が必要。防犯面では特殊詐欺が多発しており、そのターゲットになるのは高齢者である。一生懸命対策を立てているが、高齢者は年々増えてきており、ターゲットが永遠に無くならない状況で、これが一番のネックである。事件や事故は様々な技術の発展で減少しているが、交通事故の件数も年々減少している。防犯カメラの普及で監視の目があることから事件も減少してきている。事件や事故については、新たな手口も出てくるので、柔軟に対応していき、事故や犯罪を防ぐにはどうしたら良いか、警察と行政で市民にしっかり周知していくことを徹底していくことを考えている。

氷見市の10年後については、高齢者の運転免許証返納が増えてくるので、地域の足が必要になってくる。それが整わない限り高齢者は運転免許証を離せない。特に山間地の交通の便をどう考えるのが高齢者問題で一番の課題と思う。お金のかかることでもあるので、早急にすることは難しいですが、10年後にはこの問題をしっかりしていかなないと、高齢者が運転免許証を返納できず、高齢者の事故が減らないのではないかと。私は氷見市外の出身者で、現在は氷見市に住んで2年目になり、とても気に入って住んでいる。富山県の海岸線を管轄する警察署にはほとんど勤務経験があるが、氷見市の海岸線は本当に良い。氷見市の海岸越しに見る立山連峰は、誇れる資源だと思う。観光に力を入れて行く際には、氷見市だけではなく、交通面等近隣市等との連携していく必要がある。きれいな海岸線に電線や電柱があると景観を損ねるので、将来的には移設等を考え、海岸線の景色がきれいに見えるようにすべきだと思う。黒部市の宇奈月温泉同様、観光客がたくさん来るので、この景観は良い宣伝になる。隣接地域、石川県も含めて連携し、観光業を強めていけば良いと思う。

(委員)

私の地区では、地域住民と協力して、例えば火災が起きた時に消防団が来るまで対応することになっている。地域づくりであれば、こういうようなことを進めていけば良いと思う。健康面では未病対策で、氷見市が運動や栄養について指導しているが、このことをもう少し推し進めて地域に認知してもらって欲しい。氷見市には、史跡箇所がたくさんある。今は単発の形で紹介されているので、トータルで紹介するものや短時間で史跡めぐりができる観光コースをつくるなどしたら良いと思う。阿尾は前田慶次郎の出身地であり、金沢市からの観光客がたくさん来ている。そこに簡単な櫓、お城の形をしたものを造れば良いと思う。間島で途絶えている海岸線を阿尾城址のところまで遊歩道を整備して欲しい。観光スポット

にもなるし、市民の健康のための遊歩道にもなるので、よろしく願います。

(委員)

資料2の中に地域医療の充実とある。評価はC評価となっていてあまり達成できていない。小施策の中の金沢医科大学氷見市民病院における高度医療の推進以外のことで、進捗状況が100%や100%近くなっている。これだけの小施策で氷見市の地域医療の充実が達成されているのか？という風に思う。総合計画施策評価シートには様々なことが書かれており、氷見市も様々なことに取り組んでいるのが分かる。ただ、例えば、地域利用の充実というときに、私が思い描くものと評価シートの数値とフィットするかというとあまりフィットしません。しかも、金沢医科大学氷見市民病院の紹介率、逆紹介率の基準数値があるが、ある総合病院になりますと逆紹介率は100%を超えている。そういう数値と比べると極端な乖離がある。したがって、この基準値というのがどこから算出しているのか分からないが、様々な意味で現実と施策との乖離が見られる気がする。それは、他のことの数字に関してもあるのではないかと感じる。私は医療関係者なので、医療関係の数値を見て疑問を感じたのですが、恐らく防災関係であれば、同じように施策、小施策を見た時にこれで評価ができるのかという疑問を感じることもあるのではないかと思います。A3の資料を見ますと、施策等が並んでおり、評価が書かれていますが、評価は何からなされているのかと考えると実態が評価されているのかという気がする。氷見市の10年後を見据えてということですが、今まで良く聞く話しでは人口が減っていく、若者が減っていく、氷見市としてどうするのか、それはできるだけそのスピードを落とすというような目標の立て方だと思う。今回1年経ったときに100人だったことを95人にしようというのが目標値になる。急激に悪化するのをできるだけそのスピードを緩めるような発想だと思う。私は、思い切って30年後、40年後の氷見市のビジョン、イメージを持つことも必要だと思う。もちろん、その際には災害等何が起こるか分からないので、そのビジョンを持つことは難しいことかも知れませんが、少なくとも人口は減る。2040年には3万人を切る。今から10年もすれば、後期高齢者の人数がMAXに達する。2040年はたった20年後である。そして、30年、40年後氷見市が存続するとすれば、どうなっているのか、その時に氷見市は時代の潮流に対する計画案に基づいて、30年後、40年後の氷見市はどうあったら良いのであろうかと思っているのか。先ほど、交通網の話が出ましたが、そういうことに対して、コミュニティバスを回せば良いという話しではない。これが氷見市の人口が2万人になり、高齢化率が50%を超えた時にどんな形の氷見市が皆にとって良いのかということ、少し遠すぎるのですが、でも必ず来るようなことにビジョンを持って、そのビジョンに向かって今ゆっくり進むという考え方もある。段々縮小化するものに対してそのスピードを何とか緩めようという計画の立て方ではなくて、30年後40年後にこうであったら皆生きやすい、街もこうであったら良いということに向かって今からどうしていけば良いかという発想の持ち方もあると思う。そこにいかないと人口が減ることは分かっている、高齢者が増えることは分かっている。いつも聞いていて感じることは、氷見市ではすぐ観光の話が出る。それはもちろん

良いことである。しかし、見方を変えると人を惹き付けるすごい自然等あるか。氷見市レベルのものは日本中探せばあると思う。日本自体の人口が減っていく、今回の新型コロナウイルス感染拡大になると観光産業がかなりの打撃を受けている。日本がインバウンド等で観光産業に施策を頼り過ぎていたということがある。だからダメージが大きかったと考える。氷見市が今後の発展を考え良い形にしていく時に、観光産業に注力した考え方で良いのかと思っている。そこに全てを注ぐのは無理なのではないかと思う。もし、30年後、40年後をゴールに1つのビジョンを持ち、それを基にどんどん発展をさせていく見方を持って、施策等の評価を見た時にもう少し違う見方が出るのではないかと思う。

(部会長)

スピードを遅くするという考えと反対で、最終的な状況を見据えてそれに向かって計画を立てるという考え方もあるので、30年後、40年後先を本来は見据えて、そこに目指す都市像を描いていきたいと思う。観光という面では、私から見ると氷見市は地域資源としては素晴らしい。これは、農山水が観光の資源になっているとも見てとれる。何か1つショックなことが起きるとそれでダウンしてしまうというのではないと思う。これがダメな時はこちらがあるという強靱な街ということを描いていかないといけないのではないかと思うが、口で言うのは簡単なことで、それを目指す都市像に具体的に掲げるとどうなるかということまで詰めていきたいと思う。具体的なことを考えながら、目指すべきものを何にするのか、そのような視点で、今ほど高木委員からも前向きな考え方を頂きたいので、ぜひ参考にしていきたい。

(委員)

私達厚生センターは、主体的に何かをするというよりは、氷見市の事業に対して後ろからお手伝いする立場になりますので、その中で何をしたいのか、これに向けて何をしたいのかは、今の時点では明確にはお伝えし難い。今、部会長や高木委員のお話しをお聞きして思いましたのは、私は氷見市で勤務するのが25年ぶりで、久しぶりに氷見市に来ましたら、山の中でワインが造られていたり、地域の特産品で商品開発を行っていたりとそういう動きは20年前には無かった動き。皆さん地元のことを自分なりにいろいろと考えてやっていらっしゃり、氷見市をなんとか盛り上げたいという気持ちが感じられる部分は良いことだと思う。その中で、厚生センターでは相談を受けた時には、法律の規制の中でうまくやっていけるようアドバイスをしていきたい。

(委員)

氷見線の利用人数が減少しており、JRからLRTに変わるという話しが出ている。ひみ番屋街はコロナ禍でも現在は休日になると駐車場も満車になるほど来館者が増えている。10年後長い目で見て、現実的に可能かどうか分からないが、LRTになったら番屋街まで線路を延ばして、そこが1つの駅になればと思う。この先北陸新幹線も敦賀、大阪とつながっていくので、関西方面から短時間で来やすくなるので、車でなくても立ち寄れる利便性の高い環境を整えれば良いと感じている。皆さんの話しを聞いて思ったのが、海岸線の景色は

非常にきれいだと思っているが、子どもの頃から感じていたのは、流木等のゴミがひどい。今年中止になったが、毎年夏にひみクリーン作戦が開催されており、私も毎年参加しているが、あれだけの量になるとなかなか追い付かない。海に遊びに行く時、観光で訪れる時等、景観をすごく損ねていると感じている。海を定期的に清掃できないものかと思っている。

(部会長)

ありがとうございました。地元氷見市がいつまでも美しくあり続けて欲しいという思いですね。

(委員)

私は土木事務所に勤務をしている。道路や河川、砂防の社会資本の整備に携わっており、安全・安心の観点から見ますと、現在老朽化している施設が多く、計画的に更新を進めていますが、10年先、更には20年、30年先を見据えて社会資本整備をしていく必要があることをあらためて感じている。資料3の10ページの住民協働のまちづくりの推進で、人口が減少すると自治会単位の地域運営が成り立たなくなることが懸念される。大事なものは、格差がなく平等であることだと感じている。地域づくり協議会が8地区で、準備会が4地区となっているが、されていないところもある。協議会や準備会ができていない地域は開発が遅れることにつながらないように全てのところに設立するようにしていくようにしてほしい。人が少なくなれば、特に必要とされることであると感じる。安全・安心はどの自治体でもキーワードになっていると思うが、第8次氷見市総合計画の暮らしづくりのところに便利で快適な質の高い生活ができますとなっていますが、快適である等、安全・安心にプラスして、快適や楽しい、うれしい等、そこに行ってみたいなと思うようなそういう中身の施策があれば更に輝いていくように感じた。

(部会長)

ありがとうございました。何となく、目指す都市像のキーワードが出てきたのではないかなと思う。第8次氷見市総合計画は、概ね人、自然、食と氷見市を代表するキーワードだと思うが、この辺りが同じだと芸がないと思う。皆さんの意見を聞いていると、安全や健康、格差が生じない(平等)、快適等の言葉が出た。輝いている魅力ある街にしていきたいという思いが地元の方々には特に思っているように感じた。アンケートの結果からも前の時から比べると少しずつ地域に対する思いが深くなっているように思った。そういった視点からいくと交通の問題や子育てを重視している気がした。医療等も人口が減って担い手も減ってくる等の問題が出てくるが、ITを駆使して対応する、新しい技術をうまく使ったまちづくりができたらと思った。それは10年先というよりは、もっと先になるかも知れないが、ただ、技術の進展が早いので、そういったものを使った氷見の街を創り上げて欲しいと思う。今日はどこまでどのようにするか。これというキーワードを挙げて下さいと言われてもすぐにはなかなか出てこないと思う。基本目標の暮らしや人、元気というのは、生活や興味、産業という言葉に置き換える表現の問題だと思う。目指す都市像におけるキーワードはあるか。今は思いつかなくても、後で思いつかれたら、地域創生推進課に連絡して頂きたい。

(事務局)

これまで、第2部会、第3部会が開催されており、いずれの部会も明確なものは出ておらず、話しの中でキーワードになるようなものが出てきているので、それらをまとめていく予定である。

(部会長)

こういうのは集めていくつか候補を挙げていくものだと思う。考え方は皆さんが本日お話しされたので、それをしっかり反映させて頂きたいと思う。

(事務局)

事務局から現状をお話しする。先ほどのお話しの中で来てみたくなる街という発言があった。その中に快適さ、楽しさという言葉もあった。まちづくりという中で様々な施策を展開しているが、近々の話しで言いますと番屋街と氷見駅をヒミカというレンタルの電動自転車を運用し始めている。4人乗りで、オープンカーであるので、天気が悪いと乗れないので、現在11月いっぱいとして冬のシーズンはオフシーズンになる。また、3月からスタートになる。どれだけ利用して頂けるか心配をしていたが、利用されているので、安心していい。どういうものを入れていくかという議論をしていく中で、乗ってみて楽しくなければならぬという視点でデザインやモビリティが採用されている。ぜひ氷見市に行ったら乗ってみたいと思えるものになれば良いということがコンセプトの1つとしてあった。氷見市として取り組んでいることの1つである。更に氷見駅から藤子不二雄先生キャラクターの怪物くんのモニュメントを駅前の通りに4体設置した。それから喪黒福造のキャラクターベンチが近々設置する。このような街中誘導という取り組みをしている。様々な中の総合的な中に氷見市という街が良いと思って頂けるようになると思う。

もう一つの大きな事業として、旧市民病院跡地で新文化交流施設を10月に着工した。これは、令和4年7月末を工期として工事を進めている。立地的には氷見市の中心地になるので、多くの市民の皆さんに、単に芸術文化活動だけではなく、いろいろな使い方ができる多目的のホールを想定しているので、アイデアを出して使って頂きたい。これが完成したら、賑わい創出につながっていくのではないかと期待を持っている。このような取り組みをさせて頂き、来てみたい街に近づけていきたいと思う。それと同時に新しい技術を使ったまちづくりというお話しが出た。氷見市の中でも今後横断的な取り組みの中にSGDsと共に未来技術の推進ということを考えている。交通、子育て、医療等様々なところで5Gに代表されるようにこれから何かができるのではないかとさせるような新技術はいろいろなところに活用していくべきと考えている。まだ具体的なアイデアには至っていないが、こういうところで活用できるということも出てくると思うので、そういったことも10年後、20年後の中では氷見市のまちづくりに大事なポイントだと考えている。

(部会長)

ありがとうございました。資料3の総合計画の柱が9つありますが、これはどのようにするか。

(事務局)

これは、時代の潮流である。第8次氷見市総合計画の冊子20ページ～23ページの部分が、時代の潮流とこれからの氷見市ということで、記載されている内容が当時掲げられた5つである。今回は、9つの視点を示している。

(部会長)

これを踏まえて、全体としての目指す都市像を考えるのですね。先ほどお話しがあったように少し長期の視点から探ってきて、そしてこの10年間をどうするかという見方で、これをつくっていけばと思う。

(事務局)

それについて少し補足をさせて頂く。資料2についてであるが、施策評価シートの⑨について高木委員がお話しされていたが、こちらに書いてある基準値の数値ですが、この計画の後期計画を作成した際の数値で、作成したのは2017年度である。基準値については、2016年度の数値を記載している。中にはその年度に出ている数値のものもあるので、一概に2016年度の数値という訳ではないが、2016年度または2017年度の数値を記載している。資料3の人口減少について説明する。2040年度までの人口減少の数値、推計を記載していて、国立社会保障人口問題研究所が推計した数値を記載している。30年、40年先の数値も出ている。その数値を申し上げると、40年先の2060年には2万人を切っていて、17,643人である。65歳以上の老年人口は8,977人となっており、50%の割合となっている。これをいかに食い止めるか、先ほど高木委員から少し指摘があったが、緩やかなという視点で、第1回目の資料として示しているのですが、氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略を昨年作成した。その中で人口減少をいかに食い止めるかということに特化した戦略を作成してしまっていて、それにより2040年に29,466という数字を32,700というくらいの減少で食い止めたいという思いで、今後取り組んでいく計画をまとめている。

(部会長)

ありがとうございました。人口減少の推計は2060年まで示されていますが推計であり、その通りになるかも知れないし、それよりも少なくなるかも知れない。それを何とか下がらないように、予定よりも上がるくらいの施策を打ち出していくことが今後していくことだと思う。評価シートについては、具体的な計画を立ていく過程の中で、何を指標にするのか、その指標を現場目線で示す必要性がある。それは、環境のところでも思うことがありまして、指標にし易いものを出しますが、現実的などれが効いてくるかということを少し捉えて頂くことも大事である。無理やり指標の目標シートをつくって達成することばかりに気を取られることもどうかと思うので、指標を具体的にしていくなりに考えていけば良いと思うので、検討願う。富山県の中だけでなく、全国的にみても氷見市はレベルがある。今努力されていることにどんな戦略があるのか分からないが、戦略を立ててがんばってしていくことが重要である。氷見市に住んでいる人が幸せでなければならないと思うので、住んでいる人

達と外から来る人達の方の、視点がこの後必要になってくる。外から来てゴミだけ落として帰っていく場合もあり、それを美しくしているのがそこに住んでいる人達であるので、その理解を救う努力をしてもらいたい。どこのところで選ばれるのかということである。そういったところを今日頂いた皆さんひとりひとりから出たキーワードを整理して頂き、未来像をつくって頂けたら良いと思う。時代の潮流ということで9本柱を挙げているが、ここについては多少増えたり減ったりできるのですかね。9本柱の横に書かれていることは今回、初めてつくられているのだと思うが、これはとても良いと思う。1つ1つの部署だけの縦割りではなく、全体を通して時代の潮流の右側のように技術や世界的な視点を入れて頂き計画を考えていくようにして頂きたい。これまでのところで、意見、発言をお願いします。

(委員)

今、コロナ禍の中で、ネット環境を利用している現状があります。資料の中にもワーケーションという言葉があったが、新型コロナウイルス感染拡大という非常事態の中で、新たな生活の仕方が見えてきた。それを今後活かせるような工夫をして頂きたい。氷見市は空気がきれい、景色も良い、食べ物もおいしい、非常に住み良い場所だということアピールすれば良いと思う。無理して都会で就職しなくてもここで住みながらICTの環境を利用して仕事ができる。住み良さを前面に打ち出し、新たな就業のあり方を追求することも今後のひとつの方法かと思う。

これだけ高速交通網が発達してきたので、都会との距離が非常に近くなってきている。インターネット環境も整備されてきているので、都会に行かなくても都会と同じ水準の生活ができることをもっとアピールしていけば良いと思う。

(事務局)

氷見市の中山間地では、ケーブルテレビが敷設されているが、光ケーブル化が進んでいて、全域で光ケーブルが利用できることになる予定である。そうしたことから、その通信環境の良さをもっとアピールできればと思っている。

(委員)

人口減少の要因は転出が多いのか、何が要因として多いのか。

(事務局)

氷見市は高校の次の大学等がないので高校卒業後、市外や県外に出ていく方が多いです。例えば高校卒業後100人が市外に出た場合、大学を卒業した後、その100人全員が氷見市に戻るかというとそうではない。そういったところで、人口減少がおきている。それから、自然減ということで、生まれる子どもの数よりも高齢者の亡くなる数が多いことも人口減少の要因である。社会的な現象と自然的な減少の両方の要因であるが、社会的な現象の方が大きい。氷見市に1年間入ってくる方が約700～800人で、氷見市から出ていく方が900～1,000人となっている。その差が人口減少になる。また、自然減については、現在1年間に子どもは約200人誕生しているが、亡くられる方が約700人である。その差が人口減少になる。

(委員)

出ていった方が戻ってこないのは、氷見市に職が無いからということが原因か。

(事務局)

そうである。就きたい仕事が無いということである。1年前ぐらいまでは、売り手市場で自分の就きたい職に就きやすい環境であったので、氷見市に戻ってくる方が少ないと考えている。先ほどの意見にあったが、コロナ禍の中で状況は変わってきているが、今後どうなっていくのか動向を見ているところである。

(部会長)

勤務地が高岡市だと高岡市に住むことにもなっているのかなと思う。県外に行って帰ってこないということもあるが、県内のすぐ近くで住んでいる実情もある。調査では住みたいところは、高岡市、富山市になっていた。利便性の関係か。今は田舎でもオンラインを活用すればいろいろとできるので、一部の話しかも知れないが、田舎の空気の良いところに住まいを求める話もあると聞いている。これまでの都会志向や高度経済成長型的生活様式が若干変わると感じる。それを支える何か基盤が氷見市にあれば少し止めることができるかも知れない。

(委員)

それを止めることを考えたら良いかと思う。

(部会長)

食べ物のサービス等氷見市は努力されて、若い方が民宿を始められたりしている。こういうことが広がっていけば止められると思う。

(委員)

参考資料にあるぶり奨学金プログラムがあるが、これはどういうものか。

(事務局)

これは氷見市で約4年前から取り組んでいる事業で、高校卒業後富山県、石川県以外に大学に進学された方を対象に氷見市内金融機関と連携して有利な金利でぶり奨学ローンをつくって頂き、その奨学金や協議会の奨学金を借りられた方に対して、在学中のローンの利子を氷見市が助成し、大学卒業後10年以内に戻ってきた場合は、返済にかかる費用も氷見市で負担する。そういう風に助成しながら氷見市への定住を図っていけないかと取り組んでいる。

(委員)

富山県、石川県以外の学生達に対してですね。

(事務局)

参考資料の説明をさせて頂く。ぶり奨学金プログラムに登録されている学生150人を対象にアンケートを実施した結果になっている。市民意識調査の結果については、3,000人に配付し、1,500人からの回答だったが、10代20代の割合をみますと5%で数が少ないので、現在ぶり奨学金プログラムに登録されている学生に総合計画に関するアン

ケートを実施した結果が参考資料に載せてある。概ね市民意識調査との乖離は無いが、中には広域行政の推進や電子化情報化の推進の割合が若干高くなっている結果となっている。氷見市への若者の定着、流入の促進については、スポーツ・娯楽・文化施設の整備を望む声等も出てきている。

次のページをご覧ください。昨年度、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した際に女性や若者等、分野ごとに集まって頂き、ワーキンググループを開催した。総合戦略を策定するにあたり、10年後の氷見市はどうであって欲しいかその姿を自由に発言頂いたものを分野ごとにまとめた。10年後の氷見市を考える上で参考になればと思い、参考資料として提示した。

(部会長)

本日出されたキーワードから目指す都市像をつくって頂くことにして、基本目標について意見があればお願いします。第8次氷見市総合計画の時は、「暮らしづくり」、「人づくり」、「元気づくり」「持続可能な自治体経営の確立」であった。先ほど申し上げたが、暮らし、生活という視点、それから人づくり、人づくりは全てのことにつながる縦軸になるのかも知れないが、いろいろな意味での人づくりである。元気づくりは観光や産業につながることである。こういう3つの柱プラス持続可能な自治体経営の確立を挙げていた。皆さんこのキーワードで何かあるか。

(事務局)

参考程度にお聞き頂ければと思う。今提示しているのは第8次氷見市総合計画の基本目標4つである。1つ前の第7次氷見市総合計画の話しをさせて頂く。第7次氷見市総合計画の時は6つ掲げていた。「輝き続ける人づくり」、「元気と温かさに満ちた地域づくり」、「活みなぎる産業づくり」、「安全でやすらぎのある生活環境づくり」、「便利で住み良い都市基盤づくり」、「新たな時代をつくる行政システムの確立」である。それを第8次氷見市総合計画では4つにした。

(部会長)

細かくするか、括るかというところで、いずれにしても人や地域、産業等というようなことですね。安全と立てるといろいろなところに安全となる。それを第8次氷見市総合計画の時は、暮らしというところに集約した感じですね。例えば、A案やB案、C案というような案があれば考え易いが、皆さんも発言が難しいと思う。個々に生活や人、産業、安全等で最後に行政の責任を1つ挙げるというような形ですね。行政以外のところをどういう括りでしたら良いかということである。皆さんからヒントを与えて頂くと案が作り易いと思う。他の部会からはどのような意見が出ていたか。

(事務局)

最初は少数に絞らずにという意見も出ていた。安全・安心はどこにも共通してくるような、生活の基盤となるような、そこを1つの目標にしてという意見もあった。また、もっと大きな括りでという意見もあった。

(部会長)

安全・安心は暮らしや防災関係にも入ってくるか。

(事務局)

そうである。安全・安心のところであれば観光に来る人も安全・安心で、観光に来やすくなる。全てにおいて安全・安心というものが、氷見市に暮らす人にとって共通するものだと思う。

(部会長)

富山県は安全・安心、活力が入って3つくらいだったと思う。昨年か一昨年につくったと思うが、大きい括りの中で各論を入れていくという感じである。第8次氷見市総合計画に近い感じかも知れない。ここはいろいろな考え方だと思いますので、事務局で調整して下さい。

(事務局)

基本目標と政策、2つともに分かりやすく表に出すか、出た基本目標に応じてどの事業に最適かを見つけて紐づけしていくことになってくると思う。

(部会長)

先ほど皆さんから頂いた意見だと、快適や魅力ある、安全、健康という言葉が出ています。今だったら、循環といった環境に関連した言葉、エネルギーの会社を立ち上げられていますので、そういう方向性もあると思う。

(事務局)

全ての部会の意見をまとめて、部会長の方々に相談しまして1つの案をつかって、2月の全体の審議会に提示する。

(部会長)

皆さんの頂いた意見の中に案に結びつく言葉があったので、それをうまく集約して頂き、案づくりして下さい。素案をつくる段階では、部会長や副部会長に相談しながら進めていくということをお願いする。それでは、皆さんから頂いた意見を集約し、相談しながら決めたものを次回はお示し頂くという形にする。本日は、皆さんからは意見を頂いたということで、締めさせて頂く。進行を事務局に返す。

(事務局)

本日の第1部会の意見等を議事録にまとめまして皆さんに配付すると共に会長や副会長にお渡しする。また、部会報告をつくることになる。それについては、部会長や副部会長に相談しながら案をまとめて皆さんに提示する。

本日は、第1部会を開催した。他に第2部会、第3部会がある。こちらでも同様の手続きを踏む。3つのものが出てくるので、それを事務局で1つにまとめて、案をつくり2月に開催予定の第2回審議会に提出する。

5 閉会

(企画政策部長)

皆さん、長時間に渡り数々の意見等御礼申し上げます。10年後の氷見市を考える大きなテーマで、難しいことではあると重々承知しているが、それがゆえに皆さんのいろいろな意見を頂きたかったというのが、事務局の思いである。その中で、キーワードとなる言葉がでた。魅力あるまち、快適、楽しさというものがあった。そして何より安全・安心が基本だと感じた。そういったことを念頭に置きながら、原案づくりに取り組ませて頂く。今後とも意見等を頂くようお願いする。本日は、ありがとうございました。